

取扱説明書

12V・DCエアークンプレッサー

WS-12BC

24V・DCエアークンプレッサー

WS-24BC



目次

ご使用上の注意事項	1・2
仕様	2
各部名称	3
付属品・組立方法	4
使用準備	5
使用方法	6
保守と点検	7
トラブルの原因と対策	8

## ご使用上の注意事項

- ◆ご使用になる前に安全上の注意事項をよくお読みになり正しくお使いください。
- ◆ここに示した注意事項は、守らないと、人身事故や物的損害に結びつく重大な内容を記載しています。
- ◆読み終わったあとは、お使いになる方がいつでも見られる場所に保管してください。
- ◆本機を譲渡される際は、必ず取扱説明書をつけてお渡しください。

### 【表示と意味】

#### 警告

使用を間違った場合に、使用者が、死亡または、重傷、物的損害が想定される内容を表記しています。

#### 注意

使用を間違った場合に、物的損害や、傷害を負う危険性がある内容を表記しています。

#### 警告

- 記載された電圧以外では使用しないでください。本体損傷の原因となります。
- +と-をよく確認して取り付けてください。逆接を行うと本体損傷の原因となります。
- +と-を短絡させないでください。事故の原因となります。
- 作業場所には作業関係者以外近づけないでください。特にお子様は危険です。
- 揮発性可燃物(シンナー、ガソリン等)の近くでは絶対に使用しないでください。

#### 注意

- 商品の運送途上の衝撃等により、商品が破損したり、取り付け部品が外れたり、曲がったりする場合がありますので、ご使用前に必ず確認して正規の状態でご使用くださいますようお願い致します。
- 整備点検、部品交換の際は、必ずスイッチが切れていることを確認し、クリップをバッテリーから外してください。
- 運転中、機械の調子が悪かったり、異常に気付いた時には、直ちに使用を中止してください。
- ご使用前には、本体各部のネジ類がしっかり締め付けられているか確認してください。
- 製品は大事に扱ってください。ぶついたりした場合は、異常の有無を確認してください。

## 注意

- 能力を超えた作業は事故のもとです。また、著しく耐久性を低下させる原因となりますので、ご注意ください。
- 作業の能率や安全のために、取扱説明書に従って、各部品がしっかりと取り付けられているか確認してください。
- 安全な作業をするためには、作業場所は常にきれいに整理をし、十分な採光が必要です。散らかした作業場所は事故のもとです。
- 調整用スパナ、レンチ、ドライバー等は使用後すぐに外すようにしてください。
- 塗装作業、又は粉塵の多くでる作業時にはマスクを着用してください。

※注意に表記してある事項でも状況によっては、死亡、重傷等、重大な事故につながる恐れがありますので、必ず守ってください。

## 設置場所

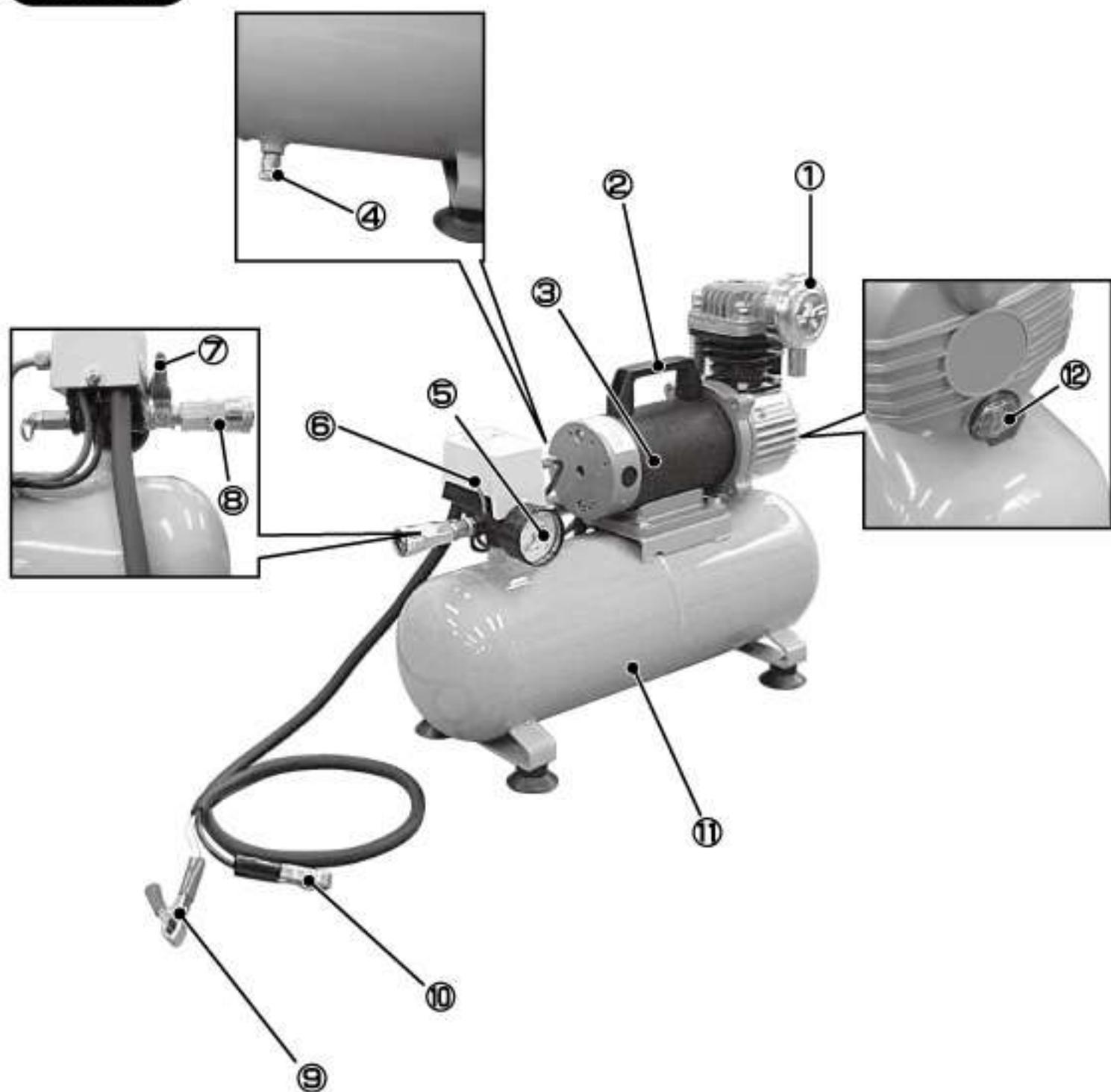
- 壁から30cm以上離し、平らで安定した場所に設置してください。
- 室温は5～40℃で腐食性ガス等の無い場所でご使用ください。
- 40℃以上での使用はベアリンググリスの劣化を招き、寿命低下の原因となります。
- 0℃以下での使用はドレンの凍結等により動作不良が発生する原因となります。
- 屋内(雨水、水滴のかからない場所)でのみ使用してください。
- 清浄な空気が吸入できる場所を選んでください。粉塵の多い所では、フィルターの目詰まりによる空気量の低下やシリンダ、ベアリングを傷付ける原因となり性能低下の恐れがあります。

## 仕様

型 式	WS-12BC	WS-24BC
電 源	DC12V	DC24V
電 流 値	30A	30A
吐 出 量	105L/min	156L/min
使用圧力	0.78MPa	
タンク容量	8L	
電線長さ	約150cm	
本体寸法	幅475mm×奥行180mm×高さ425mm	
本体質量	約12.9kg	約13.3kg

※商品の外観・仕様等は改良等のため予告なく変更されることがあります。

## 各部名称



① 消音器 (フィルター)	⑦ エアークック
② 取っ手	⑧ 吐出口 (カプラ接続)
③ モーター	⑨ クリップ (+)
④ ドレンプラグ	⑩ クリップ (-)
⑤ 圧力計	⑪ エアータンク
⑥ スイッチ	⑫ オイル点検窓

## 付属品

※大きさは実寸比と異なります。



消音器 (フィルター)



カブラ



コンプレッサーオイル

## 組立方法

### 消音器(フィルター)

消音器取付口に消音器を取り付けます。  
時計方向に廻してしっかりと締め付けてください。



### カブラ

吐出口に付属・または市販のカブラを差し込み、  
取り付けます。モンキーレンチ (市販品) 等で  
しっかりと締め付けてください。

※吐出口に市販のシーリングテープを巻き、  
空気漏れを防いでご使用ください。



## 使用準備

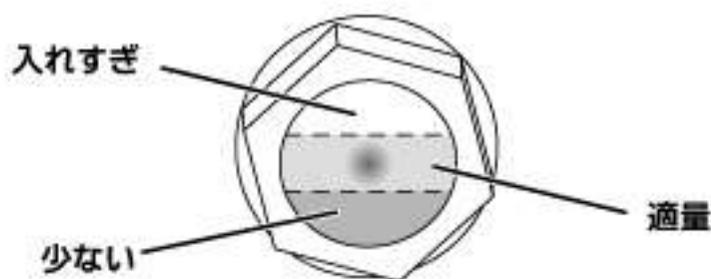
### 注油

出荷時にはオイルは注油されておられません。  
ご使用前には必ず付属のオイルを注油口から  
注油してください。



### オイル量の確認

運転前には必ずオイル点検窓を見て、オイル量が適量であることを確認してください。  
オイル量が少ないとコンプレッサー焼損の原因に、オイル量が多いとオイルのふき  
こぼれの原因となります。



## 使用方法

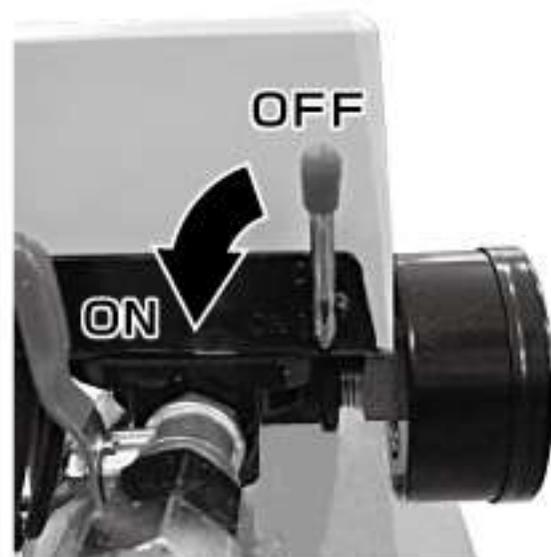
### ⚠ 警告

- 記載された電圧以外では使用しないでください。本体損傷の原因となります。
- +と-をよく確認して取り付けてください。逆接を行うと本体損傷の原因となります。
- +と-を短絡させないでください。事故の原因となります。

### スイッチ

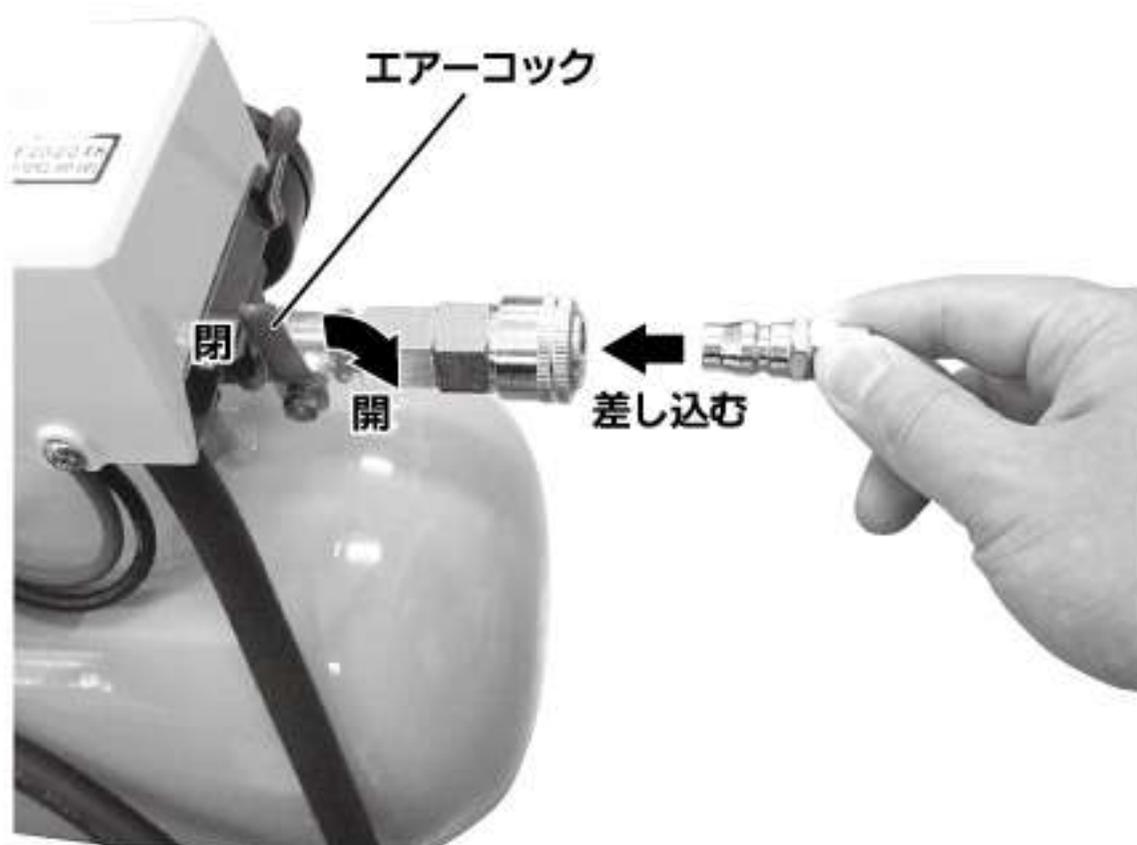
倒すと起動し、立てると停止します。

本製品はタンク内圧力が約0.78MPaになると停止し、約0.59MPaまで下がると再起動します。タンク内圧力が約0.78MPaを超えても圧力スイッチが働かず停止しない場合には、約0.86MPaで安全弁が作動し、タンク内圧力を下げる安全構造になっております。



### エア工具の取り付け

エアホース・エア工具類を差し込む際は、安全のためエアコックを閉じてから作業を行ってください。取り付け後は、吐出口に対して水平位置に回して全開にしてください。



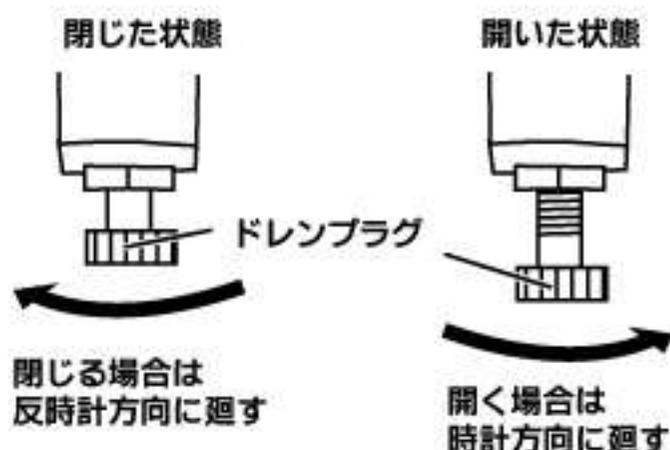
## 保守と点検

### 消音器(フィルター)

- 年に一度を目安に交換してください。また、汚れがひどい場合や使用頻度の高い場合には、機能低下の恐れがありますので早めに交換することをお奨めします。
- 消音器はオプション部品(別売り)として用意しておりますので、本機お買い上げの販売店へお問い合わせください。

### 水抜き

- ご使用後はスイッチを切り、クリップをバッテリーから外してから、エアータンク下部に付いてるドレンプラグを開いて水抜きをしてください。



- エアーを圧縮すると必ず水が発生します。サビ防止のため使用後は必ずタンク内の水抜きをしてください。

### オイル交換

- オイルは使用頻度を考慮して適宜交換してください。
- オイル交換の際は、オイル点検窓をモンキーレンチ(市販品)等で外してオイルを交換してください。(オイルの注油方法は5ページ参照)
- ※オイル点検窓は壊れやすいので優しく扱ってください。
- ※オイル交換に使用するオイルは、市販のコンプレッサーオイルをご使用ください。
- ※廃油は法令に従って適切に処理してください。不法投棄は絶対にしないでください。



## トラブルの原因と対策

トラブルの種類	原因	対策
回転しない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリップが外れている</li> <li>・バッテリーが切れている</li> <li>・タンク内圧力計が0.59MPa以上になっている</li> <li>・モーター故障</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリップを確実に接続する</li> <li>・バッテリーを充電する</li> <li>・バッテリーを交換する</li> <li>・スイッチが切れていることを確認し、タンク内のエアを抜き、再起動させる</li> <li>・お買い求め販売店に相談する</li> </ul>
圧力が上がらない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドレンコックが開いている</li> <li>・消音器の汚れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドレンコックを閉じる</li> <li>・消音器を交換する</li> </ul>
異常音・振動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置不良</li> <li>・各部ボルトのゆるみ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平らで安定した場所に設置する</li> <li>・ゆるんでいるボルトの増し締めをする</li> </ul>